



学びあい 育ちあう



新学習指導要領対応

令和元年度福祉体験学習活動事例集



社会福祉法人
松山市社会福祉協議会



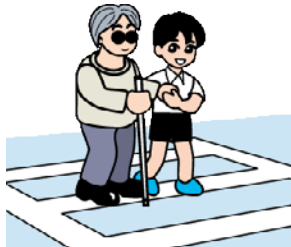
「共に生きる社会」に必要な福祉体験学習のあり方を考える

～子どもたちの幸せな未来のために～

「共に生きる社会」という言葉は当たり前になっていますが、現実の生活では、差別や偏見がなく、相手を思い合って生きることができているでしょうか？

障がい者に対する差別や偏見、外国人に対する差別や偏見、今は、新型コロナウイルス感染に関わる差別や偏見……と、時代が変わっても解消できていません。グローバルな時代となり、世界との距離感が縮まり、「共に生きる社会」を目指す動きも活発になってきた反面、SNSでは、自分だけよければいいという考え方もかなり目立つようになり、差別や偏見に関する問題も一層深刻になってきているように感じます。こうした問題を解決していくには、子ども時代から「共に生きる社会」の大切さを学び、みんなで幸せな社会をつくっていかうとする心や態度を育てていくこと、つまり、「共生社会の実現」を目指した学校教育を家庭や地域と共に創り上げていくことが必要になります。

新しい学習指導要領では、生きる力の育成をさらに充実させるために、「社会に開かれた教育課程」の実現をキーワードにしています。学校と家庭と地域が連携・協働して、「共生社会の実現」を目指すことが子どもたちの幸せな未来のために求められているのです。



さて、約 20 年前、「総合的な学習の時間」が学校教育に導入され、多くの学校で、「共に生きる社会」を地域で実現していくために、福祉体験学習が導入されました。教科書にも手話や点字等が紹介され、障がいについて学ぶようになりました。松山市社会福祉協議会は、福祉体験学習の研修を企画したり、人材の派遣やグッズ等を整えて貸与したりする取組がなされ、松山市内の小中学校をサポートしていきました。しかし、学校教育の重点の変更や多様な教育課題への対応等で、各学校では、福祉体験学習に時間を割けなくなり、パターン化した学習になったり、縮小したりするところも増えてきました。

そうした状況の中で登場した今回の「社会に開かれた教育課程」の実現は、今までの福祉体験学習の意義を見直す機会の到来だと思えます。子どもたちの幸せな未来のために実践すべき福祉体験学習はどうあればよいか、学校と家庭と地域で知恵を出し合って創り上げていくことが求められています。



今回紹介するモデル校3校は、それぞれの学校や地域の実態に応じて、独自の考え方で意欲的に取り組んだ福祉体験学習です。参加した子どもから大人まで、みんな幸せな表情をしていた感動的な活動でした。この3校の取組が、これからの福祉体験学習の道標になることは間違いありません。多くの人に読んでもらいたいパンフレットが完成しました。

愛媛大学教職大学院 特定教授 遠藤敏朗

<このパンフレットで紹介する活動事例>

○松山市立石井小学校 ～パワー集結！地域と展開するダイナミックな体験学習～・・・1

○松山市立八坂小学校 ～「人」が大好き！児童がつくる「仲間」との時間～・・・4

○松山市立清水小学校 ～地域で育む！「やさしさボランティアリーダー」～・・・7

～パワー集結！地域と展開するダイナミックな体験学習～

— 概 要 —

- ・ 4年生、160人
- ・ 单元名「共に生きる」
- ・ 学習目標

障がいのある方々との交流や体験活動を通して、様々な障がいについて知るとともに、よりよい関わり方について関心をもち調べる。また、その学びを地域へ伝え広げる。

◆地域の方のサポートにより、大規模校で一斉の「体験」を可能にした実践。



慣れているはずの廊下を歩くのも緊張！



昼食は講師や地域の方と体育館でお弁当を「いただきま～す！」



講師＆担当の先生による授業を地域のみなさんがサポート！

— 学習活動の流れ —

【授業① 2019年5月21日】

導入として「福祉」「障がい」「視覚障がいのある生活と盲導犬との歩行」について学習。

＊講師：森畑裕子（松山市社会福祉協議会）

【授業② 2019年10月18日】

80分×4限授業で、全員が4テーマを体験。

地区民生児童委員のみなさんが体験活動を補助。昼食は講師や地域の方と体育館でお弁当を囲んだ。

〈車いす〉

段差や曲がり角などを設けたコースを、車いすに乗る役・介助する役になって体験。

＊講師：井谷重人氏（CIL（自立生活センター）星空）
CIL 星空スタッフ

〈手話〉

聴覚障がいがあり手話を使用している人の日常生活について話を聞いた後、手話体験。

＊講師：福積いづみ氏（松山市聴覚障害者協会）
松山市登録手話通訳者

〈ガイドヘルプ〉

支援機器の実演の後、アイマスクをつけた視覚障がい者の役とガイド役がペアになり校内を歩く。

＊講師：石川典子氏（愛媛県網膜色素変性症協会）

〈点字〉

点字表記の説明の後、点字盤を使用して点字を書く。

＊講師：点訳グループめばえ
点字利用当事者

【授業③ 2020年1月30日】

福祉体験学習発表会で授業②の感想とその後の調べ学習の成果を発表。講師や地域の方も発表を参観。

学びの特徴

— すべての児童にすべての体験 —

市内随一の大規模校でもある石井小学校。

その4年生160人全員に「すべてのテーマを体験させたい」という学校の希望をかなえるため、松山市社会福祉協議会では「一日に4回同じ授業を行う」ことに協力してくださる講師を揃えました。

学校も、給食ではなくお弁当にして、可能な限り体験と交流に時間を使えるように調整してくれました。

子どもたちも時間・テーマごとに教室をスムーズに移動していて、講師陣もボランティアも毎回新しい気持ちで授業に臨みました。



— 地域に支えられて学び 地域に学びを伝えていく —

講師や子どもたちの安全確保のためにも、今回の授業には体験を見守り手助けする人材が必要でした。そこで、松山市社会福祉協議会から「石井東地区民生児童委員協議会・障がい者福祉部会」と「石井東地区社会福祉協議会」にお声がけをしたところ、「子どもたちの学びのためなら」と、二つ返事でご協力をいただけることになりました。

当日は、子どもたちがさまざまな体験を行う姿をあたたく見守ったり、危険回避のために細やかに声がけをしてくれたりしていました。

また、地元のお祭りの直前だったにもかかわらず、発表会にもご参加くださり、「地域全体に学びを広げたい」という子どもたちのメッセージをしっかりと受け止めてくれました。



— 学びの風景・学びの成果 —

- ・講師とお弁当を囲むことで、子どもたちは「学んだばかりのサポート方法」を実践することができました。また、講師の側も授業ではない時間のふれあいを楽しんでいました。
- ・地域の方に授業のサポーターとしてボランティアで関わってもらうことで、子どもたちの学習や学校の取り組みを知ってもらう機会となりました。地域みなさんが学校教育に興味を持ち、「いつでも応援する」という気持ちでいてくれることが分かりました。
- ・「講師や地域みなさんに発表を聴いてもらえる」ということで、子どもたちのモチベーションも高まりました。「誰に聴いてもらいたいのか」という目的が明確になり、発表後の達成感にもつながりました。

— コーディネートのポイント —



【事前の打ち合わせ】

- ・授業①の前に、総合的な学習の時間のテーマや単元の目的、年間の流れを確認するとともに、子どもたちの学びに対する先生の想いを共有。初めての「一日福祉体験学習」形式の実施に向け、時間配分や体験方法のアイデアを出し合い検討を重ねました。
- ・各講師への依頼にあたり、授業の目的や流れ、先生の授業への想いを伝えました。
- ・各テーマの講師と、その教室で進行を担当する先生との打ち合わせを1回実施。先生方から前後の授業内容などを聴くことができたことで、講師も講話内容などを見直すことができ、より目的に沿った授業の実施へとつながりました。

【地域への協力要請と学習成果の共有】

- ・松山市社会福祉協議会には地域住民『地域のプロ』と専門職『支援のプロ』を『つなぐプロ』である「生活支援コーディネーター」がおり、日頃から地域の社会資源を把握し、支えあいのつながりづくりをすすめています。今回の授業には、講師や子どもたちの安全確保のためにも体験を見守り手助けする人材が必要であったことから、石井東地区を担当している生活支援コーディネーターと協働し、地域のみなさんの協力を得ることができました。地域の方は授業に参加することで学校教育への理解が深まり、今後の連携・協働のきっかけとなる活動になりました。

— 地域の方の声 —



4年生の「様々な障がいについて知ろう」の授業に石井東地区民生児童委員16名が参加させていただきました。学習内容は、介助を受ける障がい者・介助者、双方の立場を経験するものでした。

子どもたちの真剣な取り組みに感銘を受けました。

この体験学習によって、子どもたちは様々な障がいについて理解を深め、自分たちで出来る事を学ぶことができたと思います。今回の体験を活かし地域との交流を深める中で、子どもたち自身が人を思いやる優しさを持って「共に生きる」「みんなが支える、繋がるまちづくり」を学んで欲しいと思います。福祉に携わる一人として、このようなすばらしい機会を与えていただいたことに感謝いたします。

石井東地区民生児童委員協議会／地区社会福祉協議会 会長 高岡順子

— 先生のコメント —

～「生」の体験ほど尊いものはない～

障がいのある方と出会い、顔を見、声を聞き、話を聴く。その方の生き様を知る。子どもたちは、自分の中にあるイメージとの違いに驚く。そのワンダフルな出会いから学びのスパイラルが始まる。

「もっと知りたい」という欲求が、次々と新たな学びを生む。

教師は、子どもたちの姿に“ワクワク”が止まらない。

子どもたちにとって最大の感動は、障がいのある方が自分を受け入れ、前向きに、社会の役に立ちながら堂々と生きている姿である。勇気をもらう。尊敬の念を抱く。そして、自分を振り返り、どう生きるかを自ずと考えるのである。このように、一連の体験活動を通して、子どもたちは、「障がい」や「障がいのある方」、さらには「自分」への意識が変わっていくのを実感する。体験で得るこの意識変革こそ、「ひと・もの・こと」とよりよく関わりながら生きていく力、ひいてはよりよい社会を創造していく力につながるのである。

松山市立石井小学校 学年主任 五十崎洋子



～「人」が大好き！児童がつくる「仲間」との時間～

— 概 要 —

- ・ 4年生、23人
- ・ 单元名「ボランティアを知ろう」
- ・ 学習目標

さまざまな人たちの人生や生活を知り、当事者の方との交流を重ねる中で、自分たちにできることを考え実行する。

◆子どもたちの気づきと提案で展開していく主体性重視の新しい「交流」学習。



初めての出会いでは「知らないこと」がいっぱい！



「一緒に楽しむ工夫」がこらされたゲームの数々



「ゆかいな仲間たち」として自分にできることを実践しながら学校案内

— 学習活動の流れ —

【授業① 2019年6月24日】

「視覚障がいのある人生と盲導犬との歩行」について学習。学習後、給食交流・昼休みを活用したふれあい。

＊講師：森畑裕子（松山市社会福祉協議会）

【授業② 2019年9月11日】

交流会「森畑さんとゆかいな仲間たち」を児童が計画・実施。目が見えにくい人も自分たちもともに楽しめる内容を企画。交流しながら解説やサポートを実践。

【授業③ 2019年9月22日】

運動会へ森畑さんを招待。競技の合間をぬって、声かけや状況説明などのサポートを実践。

【授業④ 2019年11月6日】

「車いすを利用している人の人生と日常生活」について学習。児童の「知りたい」気持ちを大切にして、「ゆかいな仲間たちの会」に新しい仲間がやってくるというスタイル。

＊講師：井谷重人氏（CIL 星空）

CIL 星空スタッフ

【授業⑤ 2020年2月19日】

「聴覚障がいがあり手話を使用している人の人生と日常生活」について学習。②④に続く「ゆかいな仲間たち」シリーズとして実施。

＊講師：福積いづみ氏（松山市聴覚障害者協会）

松山市登録手話通訳者

【授業⑥ 2020年2月予定】

「ゆかいな仲間たち」打ち上げ会

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止

学びの特徴

— 「知りたい」気持ちを叶える「出会い」 —

子どもたちの「知りたい」という気持ちと心の成長に合わせて体験学習を計画して行きました。

当事者の人生や生活について、じっくりと話を聴き、給食や休み時間を活用して、当事者と会話し、ふれあいながら、サポートを実践しました。

総合的な学習の時間と学級活動を活用し、学級経営（学級づくり）を基盤にしていることで、子どもたち自ら「どのような出会いの場にするか」「どのように交流が深められるか」を考え、みんなで協力し合う姿が見られました。



— 共に過ごす時間から学ぶ —

障がい者への接し方などを事前に学習するのではなく、子どもたちが講師と関わる中で直接「こうしてほしい」「これではわからない」などの指摘を受けながら学んでいくようにしました。それにより、自ら気づき、行動することができるようになっていました。

子どもたちには、これまで接したことがない人を前に、「知らない」ということから生まれる「怖い」という印象や区別する意識がありましたが、担任の先生の「みんなに任せる」という一貫した姿勢により、子どもたちは自由に講師に疑問をぶついたり会話したり学校を案内したりするなどしながら関係を深め、壁を取り除くことができました。

戸惑う場面も多くありましたが、「失敗しながら理解する」「自分で気づく」ことで、学びが深まりました。

— 学びの風景・学びの成果 —

- ・ 視覚障がいのある方と一緒に楽しめるゲームとして「手で触れて箱の中身を当てる」というものを考えたり、電動車椅子で上階にあがれない方へ学校を案内するためにビデオ通話を利用して中継したり、子どもたちの自由な発想で交流を深めました。

- ・ 視覚障がいの方へ給食のメニューや食器配置の説明をしたり、お楽しみ会の進行状況を言葉で伝えてガイドしたりしました。その際は、担当者を決めて役割を固定するのではなく、子どもたちの関わりたい気持ちを大切にしました。それにより、たくさん子どもたちが臨機応変にサポートを体験することができ、先に体験した子どもが友達にも声がけを促したりする姿も見られました。



— コーディネートのポイント —



【事前の打ち合わせ】

- ・授業①の前に、総合的な学習の時間のテーマや年間の単元の目的、流れなどを確認。先生が日頃から大切にしている「教師主導ではなく子どもたちが求めるものを授業に組み込んでいく」という展開方法で進めることにしました。
- ・ほとんどの福祉体験学習で行われる車いす介助体験、ガイドヘルプ体験にとらわれることなく、子どもたちから希望があった時のみ実施することにしました。

【“仲間”との出会いの授業づくり】

- ・授業②～⑤では、授業①の“仲間”（講師）との出会いから、子どもたちの気づきや行動、「知りたい」「出会いたい」という気持ちを尊重し、その想いを講師に伝えるカタチで依頼しました。
- ・給食時間や昼休みを活用したふれあいの中で、子どもたち自らが考えてサポートや声がけにチャレンジできる時間を大切にしました。

— 講師の声 —



とにかく先生と子どもたちが素晴らしかったです。角藤先生は、子どもたちに自由に考えさせて、発案したものをどんどん実現させていくのです。厳しい先生によって統率の取れた学校が多い中で、この学級の雰囲気には驚かされました。小学生の自由＝無法地帯になるのでは？と思いましたが、物事を最後までやり遂げていく過程で、自由な中にも責任が自然と身についていくことがわかりました。そして質問する際も、まず自分なりに考えてから聞く子がほとんどで、考える力も備えていることに感動しました！

何度でも行きたくなるような、こんな素晴らしい学校が松山市にあることを本当に嬉しく思いますし、角藤先生を温かく見守る校長先生たちを心から尊敬します。

C I L 星空 代表 井谷重人

— 先生のコメント —

今回、子どもたちが主体的に考え、子ども自身がつくる授業をさせていただくことができました。この体験を通して子どもたちはしっかりと心に「共に生きる」ことのすばらしさを刻みました。常識的なことを理解しただけでなく、相手に心を寄せる、互いを大切にするもののすばらしさを感じ取ることもできました。知り合って、話して、深く語り合って、伝え合って、ハグして…… 子どもたちにたくさんのことを体験させていただいた皆様に深く感謝しています。

この活動をした子たちは今、5年生になっています。交流した皆さんのことを今でも「ゆかいな仲間たち」として認識しており「先生、〇〇さんは次はいつ来るの？」と私に聞いてくる子がたくさんいます。この子たちが卒業するまでにはぜひともまた交流（←注・あえて取り消し線）、いえいえ皆さんに久しぶりにクラスに登校してもらい、またすばらしい時間を共有できればと思っています。

松山市立八坂小学校 教務主任 角藤定男



～地域で育む！「やさしさボランティアリーダー」～

— 概 要 —

- ・ 5年生、85人
- ・ 单元名「やさしい町 しみず」
やさしさいっぱいプロジェクト～私たちにできること～
- ・ 学習目標

清水小学校のある地域は、「やさしい町」のしくみをもっているということに気づき、様々な福祉体験からの学びを通して、子どもたちが自分にできることは何かを考え実践する。

◆校内に地域福祉拠点がある強みをいかし、地域の一員としての力を育む6年間。



給食の時間は、交流・学びを深めるチャンス！



サングラスや手袋をして高齢者の疑似体験



学習発表会にも講師や地域のみなさんがかけつけてくれました！

— 学習活動の流れ —

【授業① 2019年5月15日】

「いきがい交流センターしみず」の機能や視覚障がいのある生活と盲導犬との歩行について学習。

＊講師：森畑裕子（松山市社会福祉協議会）

【授業② 2019年5月29日】

「視覚障がいのある生活とガイドヘルプの方法」と「車いすの生活と介助方法」のいずれか一つを選択し、体験。体験後に全員で給食交流。

＊講師：金村厚司氏（松山市ボランティア活動体験学習研究会きらり）
井谷重人氏（CIL 星空）
CIL 星空スタッフ

【授業③ 2019年10月28・29・30日】

高齢者の体の特徴と介助方法を学習。

＊講師：松山市地域包括支援センター味酒・清水職員

【授業④ 2019年11月20日】

職場体験のオリエンテーションを実施。

＊講師：いきいきステーション友遊しみず
活動援助員・看護師・介助員・協力会員
松山市社会福祉協議会職員

【授業⑤ 2019年11月29日】

福祉体験学習発表会。授業①②の講師や地域の方も発表を参観。

【授業⑥ 2019年11月25日～12月19日】

支援者の一人として職場体験（2回）。

【授業⑦ 2020年2月10日】

「やさしさボランティアリーダー」証書授与式
清水地区社会福祉協議会会長より授与。

学びの特徴

— 地域福祉と学びの拠点「しみず」の存在 —

清水小学校は校内に「いきがい交流センターしみず」「清水地区社会福祉協議会」「松山市地域包括支援センター味酒・清水」があることを活かした授業づくりをしています。子どもたちは6年間を通じて、高齢者や地域の方々と授業だけにとどまらず、給食時間や昼休みなど日常的な交流を継続しています。

その経験から、自分たちができることを考えたり行動したりする力が身についていきます。子どもと高齢者、先生としみず職員との間に構築されている関係性を基盤に授業を企画・実施しました。



— 「やさしさボランティアリーダー」で目標設定 —

子どもたちも「地域の担い手の一人である」ことを意識づけるため、「地区社会福祉協議会から『やさしさボランティアリーダー』の任命を受ける」という設定を作りました。

学内外で誰かの手伝いをしたりするとシールがもらえるという仕組みで、気持ちを行動に移すことにためらいがある子どもも一歩踏み出しやすくなりました。

子どもたちが自分の実践を先生や職員へ報告することで、感謝やねぎらいの言葉が増え、友達と伝え合うことで、楽しさややりがいの共有が広がりました。

— 学びの風景・学びの成果 —

- ・清水小学校では、入学時から途切れることなく交流をしてきた地域の方が授業へ協力してくださり、学校内外での学びを応援するスタイルが確立しています。子どもたちはこの環境の中で、自然体で相手に対し想いを表す実践行動をとることができ、自己有用感や規範意識が高まっています。
- ・子どもたちと「いきがい交流センターしみず」に関わる地域の方との交流については、年度を越えた学びの流れを意識したコーディネートが可能で、教職員と松山市社会福祉協議会職員との打合せもスムーズにできています。
- ・学校と「いきがい交流センターしみず」の交流授業への「想い」を共有しているため、翌年度に向けた課題の確認や改善点についての対応に前向きに取り組むことができています。

— コーディネートのポイント —



【事前の打ち合わせ】

- ・総合的な学習の時間のテーマや単元の目的、年間の流れを確認。
- ・1年生～4年生までの異世代交流を通した子どもたちの学びと心の成長を意識し、地域資源、障がい者、高齢者、職場体験（キャリア教育）、地域福祉活動（ボランティア）の流れを共有しながら計画を立てました。

【幅広い協力団体】

- ・学校内に「いきがい交流センターしみず」「清水地区社会福祉協議会」「松山市地域包括支援センター味酒・清水」があることをいかした授業づくりを実施。
- ・授業に清水地区民生児童委員協議会、清水地区社会福祉協議会、しみずサポートボランティア（学生）、松山市社会福祉協議会職員など、多くの地域の担い手に関わることで、子どもたち一人ひとりが清水地区のやさしい町づくりを担う一員であるという気付きのある授業を先生と話し合いながら展開しました。

— 地域の方の声 —



時代の変化とともに、核家族化が進み、個人主義的な生き方が可能となり、親戚や地域のつながりは希薄になりがちな昨今です。

このような中、『やさしさボランティアリーダー』の任命を受けた子どもたちが、いつもよりちょっとだけ勇気を出して、周囲の人に声をかけ、行動してくれることを期待しております。

そして、この取り組みを通じて「寛容の心」を育み、子どもたちが自分の考えや意見を正しく伝えることの大切さを学び、それぞれの個性や立場を尊重し、色々な見方や考え方のあることを理解できる人に成長するための一助になればと願っております。

「にこにこ・いきいき・はつらつ」の清水っ子 がんばれ！

清水地区社会福祉協議会 会長 横山定雄

— 先生のコメント —

本校には、学校の敷地内に「いきがい交流センターしみず」という高齢者福祉施設があり、そこには福祉の専門家、地域のことに詳しい社会福祉協議会の方々、そして日々通われる高齢者の方々がたくさんおられます。本校では、貴重な人材（リソース）を総合的な学習の時間をはじめとした教育課程に積極的に位置付け、子どもたちの学びの質を高めてきました。

一方、この交流は高齢者の生きがいとなり生きるエネルギーにつながりました。また、子どもたちには高齢者への思いやりの心を育みました。多くの方々の優しさに包まれ、温かく見守られながら清水っ子は「にこにこ・いきいき・はつらつ」と成長しています。

松山市立清水小学校 教務主任 本田 靖



先生方の「想い」をお聞かせください！
学校の教育目標・授業のねらいに沿った多様な体験メニューを
提供します！！

○授業の企画

まずはご相談を。総合的な学習の時間の全体計画や学校の教育方針（目標）、授業のねらい等をお伝えください。『何ができるようになるか』『何を学ぶか』『どのように学ぶか』、松山市社会福祉協議会と学校とが連携し、様々な社会資源を駆使して地域を基盤にした教育プログラム作成のお手伝いをします。

○講師派遣

松山市社会福祉協議会と学校が連携し作り上げた福祉体験学習プログラムを基に講師を選定し、学校に派遣します。

○体験用品の貸し出し

学校・企業等が行う福祉体験学習等が円滑かつ効果的に開催されるよう、必要な資機材を整備しています。

【貸出用品】

車いす体験（車いす・段差セット・ロープ）、視覚障がい体験（アイマスク・白杖）、点字体験（点字盤・点字セット）、視覚障がい者理解（点字ブロック（2種）・音声読み取り装置）、高齢者疑似体験セット（ゴーグル・重り付ベスト・杖等）※子ども用もあり、聴覚障がい体験セット（ヘッドホン等）

★大学・会社・家庭教育学級などにもおすすめです★

大学の講義やボランティア養成講座で「歩道で前方から盲導犬を連れた方が歩いてきたら、あなたはどのようにする？」と尋ねると、ほとんどの学生が「邪魔をしないようにそっとよける」と答えます。みなさんなら、どうですか？

「答え」が気になる方は、社会福祉協議会に一声かけ、ぜひ授業や研修会などの「学ぶ場」をつくってみてください。

「関わり方」が分からないのは、おたがいさま。それを見出した時に生まれる喜びや安心感が、自分たちの世界をどれだけ豊かにするか、このパンフレットに登場する子どもたちや講師のみなさん、地域の方々が教えてくれています。

「関わる」ために一歩踏み出し、共に生きる社会をつくっていきましょう！

松山東雲女子大学 人文科学部心理子ども学科 実習担当講師 柴崎あい



『学びあい 育ちあう』令和元年度福祉体験学習活動事例集

（発行日）令和2年11月

（発行＆問合先）社会福祉法人 松山市社会福祉協議会

松山市ボランティアセンター

松山市若草町8番地2 松山市総合福祉センター内

電話：089-921-2141 Fax：089-921-8360

e-mail：vc@matsuyama-wel.jp

